

四四 受信 一三〇五八 講了 一三二一〇 電 〇二二二二三 作機 〇 航本

昭和廿年四月五日

緊急 指宿空基地 鹿野空基地



博多、鹿兒島各空基地。米子空基地

機密第〇四〇〇三〇番電

發 第八〇一航空隊司令

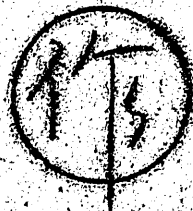
宛 丁三〇工飛行隊長

- 一 瑞雲隊ノ第一期作戰ハ五日夜間攻撃ヲ以テ終止ス
- 二 第二期作戰ハ概テ責見通實施スル一トトシ開始期日ヲ八日ト豫定ス
- 三 第二期作戰打合セノ爲六日午後又ハ七日午前來艦セヨ 連絡飛行便 設定ノ都合アリ來艦日時ヲ定メ報告スベシ。

通二五六七 呂一日ケ七一八七五KO 一KFGB放

末松(山中)

alr (S) 自取



作戰要旨

四 四
開始 〇四三二
〇四五〇
〇一〇三二
〇一〇三二
〇一〇三二
〇一〇三二

就作
本概 〇

昭和廿年四月五日

● 〇 三部隊

● 海上護衛隊
● 〇 三部隊 佐領・御海軍・上海海軍

● 〇 三部隊 佐領・御海軍・上海海軍

● 〇 三部隊

海軍機密第〇三二一〇〇番電及機密第〇三二一四四番電中北緯三二
度三〇分トナルヲ北緯三一度三〇分ニ訂正ス。 〇一三〇

編三四五七 於十六 (B) 佐世保 山本 (森) 田 ()

四 四 受信 始 ○七五五 ○九五〇

丁 一〇二〇

電 〇二二四九

抗作 本 ○

作戦緊急

● 厚木、第二鈴鹿航空基地

● 横 濱 空 基 地



● 聯合艦隊司令部。第五、一〇各航空艦隊司令部。筑波、霞ヶ浦各空
分 隊。第一、百里原、名古屋、申良各空基地

機密第 〇 四 〇 四 〇 三 番 電

一 U.F.B 信電令作第三四號

一、八 F G B 可動兵力ハ四月四日南九州ニ緊急進出豫定

二、各空 隊ハ四月日ナルベク早朝左ニ依リ輸送機派遣右兵力ノ展開ノコト

ニ協力スベシ (派遣基地・展開基地 派遣機隊ニ第一空艦隊筑波 鹿

屋 二機百里原 申良一機 第一團分二機 第二空挺隊名古屋第一團

分二機

通二五四五 於十五(七八七五) K F G B 機

小野寺 (小野 田)

昭和七年四月五日

四四

受信一三五〇
譯始一五二五

譯了二七〇五

電〇二四四五

航作
概〇

昭和廿年四月五日

緊急

カムラン航空基地

九三空



海上護備總部隊各戸・第十三航空艦隊戸・第一護衛艦隊戸・?

865

機密第〇四一〇一六番電

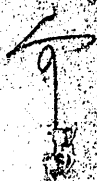
當隊機密第〇三二一五五番電開聯

「カムラン」基地ハ當分ノ間「ビエンホア」基地夜設完全迄

主トシテ夜間飛行訓練ノ爲左ノ通殘置ノコトト致度

指樞官山上大尉水偵三機搭乗員約四組其ノ他約五五名計約七〇

通二六五二 天一Bケ六(一七五九〇)十通 加賀(鈴三)



四 四 受信一七三〇 譯了 一七三五 電〇二三六六
譯始 一七一五
昭和廿年四月五日
作 概

至 急

八丈島航空基地



七基地航空部隊戰團概報着信艦所。横 鎮

機密第〇四一〇二九番電

866

八丈島戰團概報第九號 四月四日

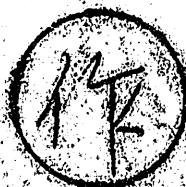
一〇二五二ヨリ〇四三五迄B一八九約七機各單機ニテ本島上空南下

内一機ハ〇四二四未吉ニ投彈(一發)セリ

三戰果被害ナシ。

通二七〇七 呂一Bケ七 (B) 木更津

三浦 (森 田)



五四

受備
始〇三二〇〇

了〇八〇〇 電〇二六四一

航作

本機

867

九〇一空 (東港航空基地)

海上護衛總口・第一護衛艦隊

九五一空・上海根拠空・博多空・二遣支隊

機密第〇四一〇四八番電

九〇一空電令第三五號

一、香港派遣隊指揮官ハ所在水上偵察機半兵力ヲ當隊電令第三四號ニヨリ

速ニ轉進セシムベシ

二、龍華及博多派遣隊指揮官ハ右轉進兵力ニ對シ速ニAS三作戰備ヲ完整

スベシ。

通二九〇八 呂一Bケ七一 B (佐世保 廣居 福田)

昭和廿年四月五日

昭和廿年四月六日

四 受信 〇二〇二四〇五
五 開始 〇二〇二四〇五
譯了 〇三二二〇
夏 〇二五九八
作 徹

至 急

吳

銀



東通・聯合艦隊P・各鎮各營・吳鎮守隊
二水戰P・二艦隊P

機密 〇四一〇五九番電 二分ノ一

發 參謀長

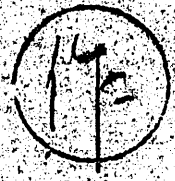
宛 軍令部次長 艦政本部 軍務局長 海設總司令部下一級

吳廣島灣方面ニ投下セル機雷ニ付吳工廠等ニ於テ調査判明セル概要

左ノ如シ

機雷ハ全重量約六〇〇キロ九〇〇キロノ二種ニシテ夫々音響機雷及
磁氣機雷ノ二種ニシテ爆藥ハ各三〇〇斤及五〇〇斤ナリ音響機雷ハ
周波數八〇〇〇KG五秒間連續スル音響ニ依リ作動スル機雷ナリ。
一電信線註 二分ノ二未着
通二八四一 天二Bケ六(B) 吳通 赤(上野)

ノ



四四
受信一九一〇
始二〇一〇

六

了〇八三〇 第〇三四四〇 作

昭和廿年四月七日

東通・聯合艦隊司令部・各鎮、各營、各隊、吳鎮守隊
二水戦下？

機密第〇四一〇五九番電 二分ノ二

從ツテ發音彈等ニ依ル處分ハ同時ニ(小時間隔)ニ數發投下ヲ可トス
磁氣機雷ハ一五秒ノ時差ヲ以テ相異ナル磁場ヲ生ズルコトニ依リ作動
ス

右ヲ最大八回(今回ハ一回)ニ調定シテ(繰返スコトヲ要スル機雷ナ
リ)

東通註 本電誤字極メテ多シ
(電信課註 本電二分ノ一既配布)

通二八〇三 天二日ケ八(日) 吳通

相川(山中)

869

作

緊急

四 四

受信一八〇五
譯始一八四九

譯了二〇一四

電〇二七九
〇二八〇〇
作概〇

昭和廿年四月六日

九三六航空隊

カムラン航空基地

海上護備總隊 一三航空艦隊 一海上護備隊西方面下
一護衛艦隊 九三六航空隊總派遣隊

機密第〇四一二〇五番電

二分ノ一二

發 九三六空印支派遣隊指揮官

機密第〇三二〇三二番電ニ依ル轉進計畫左ニヨリ準備中御指示ヲ得

度

一 第一派遣隊 (水偵零戰指揮官島田中尉以下七〇) ヲ編成シ「カムラン」

ニ「カムラン」基地ハ整曹長一基地員二〇外ニ瀟兵三〇 (目下配員ヲ要

請中) ヲ配置ノ筈

通二七七八〇六

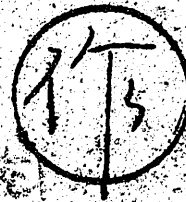
天一Bケ六 (一七五九〇K) 十通

坂田・中村 (松井)

870

四四 受信機一六三三 調丁一九〇〇 電〇三三五二 作機

緊急



● 二三機受信機受信機所

四一三三〇

871

昭和廿年四月五日

第二十二警備隊 四月四日

一〇三二〇B二四 一機パリックパパン地区ニ來襲東方及南方海面ヲ

執拗ニ旋回航行中ノ機帆船ヲラウ等ヲ銃撃〇五二〇東方ニ逃走

三 戦果 被害機帆船一機失上。

通二六六七 協作甲四(一八三六七五)(二一通 馬場(森)田)

人

開始〇〇三三〇〇
〇〇五二二〇〇
〇〇一〇六〇〇
〇〇〇三三三三
一 作 機



東部空襲部蒙戦報着信機所

機密第〇四一二四七番

873

昭和廿年四月五日

蒙北空襲機報

三月三十一日 一〇〇〇〇 一機上空通過南行

四月一日 〇八一〇 一機「ケンダリ」基地北西方ヲ通過西行

同日 一四一〇 敵大型機一機西方ヨリ來朝爾後二三二二迄「ケンダリ」

「アンベシヤ」兩基地上空一帯ヲ旋回「ケンダリ」ハ上空ニ四回侵入計四回發射「アンベシヤ」五回五發

回戦果機管ナシ。

三〇一五 呂一〇ラ十八ハ六二二二ニ、他廿一通



四 四 受信一六三五

一六五〇 〇二二八

航本 〇

緊急

國分第一航空基地

香取空基地・第三航空艦隊

機密第〇四一三〇五番

陸 六〇一海軍航空隊司令

海 六〇一海軍航空隊副長

戰鬥三〇八飛行隊才即刻百甲基地ニ集結セヨ。

通二六七八 天二Bケ八(七六〇五) 柳屋空基地 藤野(鈴三)

昭和七年四月五日

昭和廿年四月五日

四 四 受信一〇九五八 譯了二三〇三 電〇〇二五五一一五四

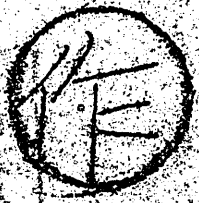
緊急

東 通

吳

鎮

作 欄



聯合艦隊司令部。各鎮・各警

機密第〇四一三四八番電

二分ノ一

875

宛 軍令部總長 海軍大臣

受報者 a e b 長官

戦闘概報 (四月二・三日)

一 B I 二九 一機二日一二二〇吳軍港及廣島灣附近ヲ偵察セリ

二 B I 二九 三機乃至四機二三五〇ヨリ三日〇一一〇迄廣島灣ニ侵入

入由布沖大鳳瀬戸音戸東口大黒神島鹿島横島附近ニ機雷ヲ敷設ノ

疑アリ

三 B I 二九 四機三日二三三〇ヨリ二三三五迄廣島灣ニ侵入早瀬瀬

通 二八一〇七

呂一Bケ七 (a) 吳通

竹中 (川崎)

(c)

1034

戸香戸瀬戸東口及廣灣大島瀬戸倉橋島南方鹿島トノ間ノ海面ニ
機雷ヲ敷設セリ
四 水偵及舟艇ノ空力ヲ以テ掃海實施中

受信一九二五

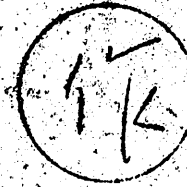
了二一一〇

〇〇三一二七

作機政〇

作機緊急

吳防戰



吳防備戰隊（下關防備隊）
海上設備艦口・吳嶽・一設備艦隊口・門司在勤官

機密第〇四一四三八番電

三分ノ三三

876

昭和廿年四月六日

(一) 佐伯防備隊第三特別掃海隊（呼出符號オラ三八特設驅潛艇二隻）
徵備漁船八隻（編成期日準備出來次第可成速ニ）

(二) 佐伯防備隊第四特別掃海隊（呼出符號オロ五〇特設驅潛艇二隻）
特設監視艇二隻（信電令作三號ニ依ル廣島灣派遣ノモノヲ之ニ
充ツ）

(三) 下關防備隊第一特別掃海隊（オラ三九）下關防備隊司令所定

道二八二三
二八六一

オ一五

（B）吳遊

星野（吉井）

（一）

三 下關防備隊 特別掃海隊 (分) 口六

下關防備隊司令所定

三 佐伯防備隊司令及下關防備隊司令ハ各特別掃海隊指揮官位ニ 名ヲ定メ報告スベシ

四 掃海擔任海面劃分ノ旨

(イ) 佐田岬掃海隊ハ部崎ノ九〇度線以南内海ノ西部及豊後水道海面

(ロ) 下關防備隊掃海隊ハ部崎ノ九〇度線以北下關海峡及下關防備隊

部隊擔任海面

五 佐伯航空隊司令ハ特令ニ依リ飛行機ヲ派出敵機ヲ探索竝ニ小型

爆彈又ハ發音機ヲ以テ 掃ヲ行フ爲メ偵察處分機隊 (三機) 二隊ヲ

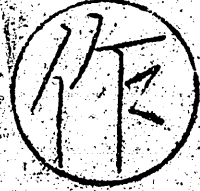
編成スベシ。

(續信証註 本頁三分ノ一未着)

昭和廿年四月五日

四 四 受信一九〇〇二 譯了二二〇〇 電〇二五六三 B作 二概

作戰緊急 吳防戰 門



吳防備戰隊（下關防備隊）
海護總口・一護備艦隊口・吳鎮・門司在勤武官

機密等〇四一四三八番電

877

司令作等二一號

一 關 門 及内海方面ニ於ケル敵ノ機雷作戰ハ益教化シツツアリ

當隊ハ與海防備隊吳空・門司武官府等ノ協力ノモトニ下關防備隊及

佐伯防備隊ノ艦艇ヲ以テ關 門 及内海 西部ノ主要航路並ニ泊地ノ啓

閉清掃續行 敵機雷作戰ノ無效ヲ期シ全力之ニ對處ヤントス

二 吳防戰特別掃海部隊（呼出符號才ヨ四九一）ヲ左ノ通り編成ス

(1) 佐伯防備隊第一特別掃海隊（才才四五）驅逐特務艇二特設監視艇二大

發中（電令作等二一號）ニ依ル佐伯防備隊特別掃海隊才之ニ充ツ

(2) 佐伯防備隊第二特別掃海隊（才才五四）驅逐特務艇二敵備漁船八

編成期日四月七日

通三九〇二 於十五（B）吳 通 小野寺（增田）

昭和廿年四月六日

職艦作
力本

電電電
〇〇〇
二二二
八八八
三三三
七六五

記丁一〇五〇

及信〇二〇〇九
開始〇〇〇二

至
急

東 通・十 通

第二南灣艦隊戸

機密第〇四一四四五番電

四分ノ六三

878

二五時根司令官

第十方面艦隊參謀長 人事局長 軍務局長

通報 取力補給部長 艦本總務部

第十方面艦隊機密第〇一〇八四二番電ニ依ル第一〇二工作部アンボン

分工場解消ニ關聯左ノ各號詮議ヲ得度

一出來得レバ六月頃迄現狀適ニテ修理時期ニ至ラハ要修理舟艇工事ノ

外設電機(三〇〇キロ三露中型三露)ノ汽洞内移轉後庫庫地内無線通

信新設工事創意工夫ニ依リ接敵兵器ノ製作トイヒ一盡ノ新設並ニ調整整備

手続ホ一段落ヲ付キ得ル見込ナリ

行三〇九五 三〇〇四

日一〇ケ五(六一二二三)七十一酒

厚根(猪狩)

(一)

三 近ク解消シヒムヲ得ズトセバ其ニ第百二工作部ニ復帰ノコトトセル
 工員中ノ殘員六〇名ヲ「サイゴン」轉用ノコトトシ當地ニハ殘リ約
 七〇名ヲ一〇二工作部ノ派遣員又ハ二十五根司令部附トシテ前項工
 事ノ繼續及爾後ノ常續的修理其ノ他ニ充當致度

(以下四分ノ四)

ニテ當地ヨリ他ニ轉用不可能ナルベシ地下工場完成現在全能發揮中
 ニシテ過度ノ縮小ハ之ヲ死蔵スルコトトナリ且所要工事繼續ヲ放棄ス
 ルト共ニ至難ナル輸送ヲ冒シ之ガ工事ヲ他ニ依頼セザルベカラザル
 不利アリ。

(電信課註 本電四分ノ三未着)

(東通註 本電四分ノ三再送要求中)

四 四

受信一九〇八
譯始二〇二〇八

譯了二一一一五

電〇二四一九

作概

〇

昭和四年五月五日



緊急

急

一 一 根

△

第一護衛艦隊擔任サンジャツク昭南間船團行動通報着信艦所

機密第〇四一五一四番電

一一特根機密第〇二二〇二八番電關聯

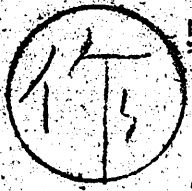
又日ヲ五日下ス。

879

通二八〇二 天一Bラ十二(一三五二〇) 高通 石川(鈴三)

四 四 受信二二五〇五 譯了二四〇〇 電〇二四五七
譯始二二五〇五 〇二四多

緊急



五基地航空部隊戰闘概報着信艦所

臺中航空基地

機密第〇四一五一五番電

二分ノ一二二

880

昭和廿年四月五日

作概

一二三〇B一三四 一二〇二隊ニ分レ來襲高度四〇〇〇米飛行場ニ

投彈(螺旋爆彈)

ニ戰果ナシ

ニ被害

(1)人員戰死六名 重傷二名 輕傷八名外ニ陸軍民間ニ若干ノ戰死

傷者アリ

(2)飛行機零戰五二型(有蓋掩體內)一炎上零戰二一型一小破銀河

通二八四〇一八五一 呂一B六七(七五六五KG)五FGB放 岩佐、藤井(森田)

二機中破（修理可能）空廠修理中ノ零戦九七式艦攻九六式艦爆
九九式艦爆二式練戦各一直撃大破
（ハ）其ノ他「トラツク」「スターター」各一中破 二石三五機メタ
ノールニ〇罐焼失民家數棟焼失ス

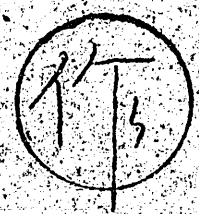
(二)

四五 受信〇八四〇 譯始〇九三〇 譯了二一〇〇 電自〇〇二七〇八 至〇〇二七一〇八

至 急

高

警



東京通信隊・聯合艦隊口

南西方面艦隊口・海上護衛總部隊各口・支那方面艦隊口・第二遣支艦隊口
第一航空艦隊口・佐領・海南警・臺灣空・馬公根口・基隆防備隊

機密第〇四一五四〇番電 三分ノ一三三

881

四月三日敵機來襲狀況

六〇四〇〇ヨリ一〇〇〇頃迄三回ニ亘リ敵大型各一機南方ヨリ侵入高
雄港口及新竹河岸ニ投彈シタル後南方ニ脱去セリ

一三五〇ヨリ一七〇〇頃迄數次ニ亘リ敵戰爆六七B一三四(西行B
一二五E二A一二B一二六 九機P一三八 八機P一四七 七機P
通三〇二六 三〇八八 三一〇九 呂一Bケ五(九一四五KG)高二放
渡邊、吹花、西河(森 田)

昭和十一年四月六日

一五一 四機 P B M C 岡山地區 臺南地區 新竹地區ニ來襲セ

三二二〇〇頃ヨリ二二二〇頃迄高雄西海面ヲ行動セル大型一機アリ

四右ノ他臺灣東海面ヲ〇九五〇ヨリ一七〇〇迄ニBY二九 二機 P

一五一 一機 B 一三五 八機 B 一三四 一機 P 一三八 六機計

三六數次ニ亘リ臺東附近迄北上内一部ハ三紹角ニ請ヌ

云戰果ナシ 現在迄ニ判明セル被害

(一) 零戦二機 P 一五〇 四機 一五〇〇頃高雄州旗山附近ニテ

自爆セリ

(二) 侦察附近機銃掃射ヲ受ケ數名ヲ負傷者ヲ出セル外製糖會社倉三

棟全壞

七月一日ノ戰果及被害ニ左ヲ追加

(一) 臺南州八掌溪ニ於テB 一三五 一機 一機 (機側機銃)

(二) 基隆碇泊中ノ大賀丸被彈浸水翻坐

(三)

四五 受信〇〇八五〇〇 解了二三〇〇〇 電〇二七四三 作機〇〇航本

名古屋航空隊

昭和十年四月六日



鹿屋航空隊基地・副分航空隊・松山航空基地
出水航空隊・宇佐航空隊

大阪警備府・兵庫・佐賀・聯合艦隊口

機密第〇四一五五六番電

宛 第一〇A 第一副分基地指揮官

名古屋航空隊飛行機隊左記ニ依リ移動セシム

一九九式艦隊二〇機 九六式艦隊二機

二五日〇九〇〇發

三浦路松山宇佐(情況ニ依リ燃料ヲ補給ス) 出水第一副分

四使用艦波六〇六六機 使用暗號書多七七 呼出符號書甲八

通三一二四 百一〇ケ七)一六四〇機(横通 堀 田(小 階)

昭和四年四月五日

四 四 受信二〇五〇 譯了二三五〇 電〇二四五三 航作 概本

緊急 六三四空淡水航空基地



第一航空隊 第五基地航空部隊台灣方面基地配備基地

883

機密第〇四一七四一發電

宛 參謀長

當基地昨夜來北東ノ風強ク吹キ天候極メテ不良トナリ古仁屋ヨリ歸投
中ノ察偵ハ一機(電波探知機ニ非ズ)ノミ歸投一機本朝行方不明他ノ一
機ハ一口〇〇現在古仁屋ニ在リ天候回復ヲ待チ歸投セシムル豫定
五FGB司令第六一聯ニ依テ索敵ハ實施不能ナリ

通二八四六 昌一日(七五六五) 五FGB放 富 永(吉田)

Y
⑤

通二九三六 才十五 (六七) 佐二被 櫻井 (鈴三)

當隊水偵一ハ發見セル敵潜水艦攻撃歸途一四三〇N三一一度五八分
E一二三度四分三不時着機体沈没落乗員三名漂流中搜索救助方
手配アリ度

機密第〇四一七五五番電



編 九五一空▽・上海根▽・九〇一空▽・佐伯空

保安緊急

四 四 受信一九五五 譯了二〇三七 電〇二四二三
譯始二〇二〇
航作 本 概 〇

キノン空基地

884

一 昭和四年四月五日

K

四四 受信二〇一七 譯了〇九〇五 電〇二六八五
航作 航本

松山航空基地

七基地航空部隊戰報概報着信船所

報 吳 鎮

機密第〇四八二八番電

三四三空戰報概報第十五號 四月四日

一 邀擊情報ニ依リ一三五〇ヨリ一五三五迄 紫電ニ機 上空
哨戒 敵ヲ見ス

二 明日、海軍勅紫電四五機 彩雲一〇機

通二九七
天六B々八 (五九三七・五HC) KFGB放
今拜(中野)

昭和廿年四月五日

人

緊急

四五

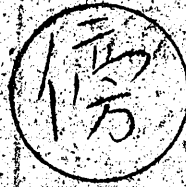
受信開始 〇九三〇五

譯了 一〇一五 電 〇二六三二

航作機本 〇

第八警備隊

南非航空隊



機密第 〇四一八三七番電

886

昭和廿年四月六日

「マバング」ランコアン「アマラン」(陸軍)共滑走路
完備補給可能「ランゴアン」ハ天候不良ナルト多シ
空襲状況各地共 〇九〇〇頃正午頃及一七〇〇頃一乃至二機來

通三一二二 呂十五ヲ十八(一八三六七・五四)二二二通

馬場(渡瀬)

昭和廿年四月六日

四 五 受信〇〇四三二 譯了 一〇一五 電自〇〇二七〇四 作 概 譯始〇〇八二五

第二番 編 除

二十二根戰國湖報着信總所

二十二根所屬 船 (除)

機密第〇四一九四二番電 三分、一、三三

海報 一〇一燃料廠長。水民長官。一〇二施設部長

戰國湖報 (四月四日)

一、一〇三〇ヨリ約二時間一五分ニ亘リP 38 七機 B 25 一九機 B 24 七機北
及南ヨリ逐次來襲 P 38。B 25ハ超低空ニテ「リンカス」海岸線附近
ヲ流線機 B 25ハ西方ヨリ一機宛逐次侵入 (高度四〇〇〇米) 水雷機
及海軍機着附近ヲ爆撃 (爆彈燒夷彈混用) 我之ト交戦一、二四六東北

三〇四三
三〇四四
三〇四七

天二Bケ六 (六一三三三) 二十一編

大甲・大石・渡部 (酒巻)

887

方ニ編入ス

二戰果

P 38

B 25

敵機ニ命中彈ヲ與ヘタルモ効果不明

被害

下士官(二名)

戦死一名

輕傷一名

原住民死亡二十二名

重傷

輕傷一七名

家屋倒壊三棟(二名)

燒失四棟(民政部)

家屋倒壊

燒失

市民病院直

蒙牛樓日産那覇工場全壊

秀

通二九七七

天二B

六一二五Kc

千通

福島

戰術概報第六十一號
 三日二〇〇九(二三〇三ヨリ侵入周辺旋回來襲五回投彈
 飛行場附近山中五對岸二被害無シ南東二消五尚伏
 在疑アリ

作

四五

受信〇〇四七
 誤始〇七五〇

誤了〇九五五

電二六九〇

作概

着

二十三根戰術概報着信艦所
 機密第〇四二〇三五番電

龍

二十三根ケンダリ一飛遣隊

888

昭和廿年四月五日

四四

作戰緊急

電〇二五八四

共

航作 概〇(護)

昭和廿年四月五日

- 海上護衛總部隊 P
- 大海參一部・天一號作戰部隊

機密第〇四二一三六番電

889

GEB電合作第四三六號

一、佐領護衛部隊及海護部隊各指揮官ハ一K.F.G.B 六F.A 及五F.G.Bノ攻撃ニ策應シ機宜敵攻略船團ニ攻撃ヲ指向シ戰果ノ積充ニ努ムベシ

二、横領護衛部隊指揮官ハ攻撃練度充分ナル部下航空兵力ヲシテ右作戦ニ關シ佐領護衛部隊指揮官ノ指揮ヲ受ケシムベシ

三、佐領護衛部隊指揮官ハ戰果積充ニ當リ本隊ノ令ヲ待ツロトナク好機第二攻撃隊ニ依ル攻撃ヲ實施スベシ

一、GF電合作第六〇一號及機密海護總命令作第一四號(斷聯)。

二、四四九 四六〇 四七一 Bケ七

(猪狩)

人

四、五

受信 〇九二七
記始 一〇二〇
記了 一一五〇
電 〇二六九七

作概 〇
航本

昭和廿年四月六日



大村航空基地

5AF P 10AF P 12GFG P
機密第 〇四二二一五 番電

一三五二空 零戦作戦可能全力五二型一六機(搭乗員二五)一三。〇
彗笠原ニ進出セシム 五二型残機全機(五機)八整備出来次第
敵日中ニ進出セシム

二大村空特別攻撃隊(一六機)及零戦隊(約八機)ノ進出ハ機材準備ノ關係上明五日上ル見込。

通三一七 呂一B
八二五 一KFGB放 午島

890